

令和3年度
運営に関する計画
最終評価

(令和4年3月18日)

大阪市立東三国中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学校の機能は停滞、運営に関する計画においては学校再開後から全教職員が何とか歩調を合わせ中期目標の達成に向けての年度目標（全市共通目標を含む）とすることとなった。しかし、学校行事や大阪府が実施する3年チャレンジテストや大阪市統一テスト、英検 IBA、全国体力・運動能力、運動習慣等調査等、年度目標の指標として提示することができなかった項目がほとんどであった。

今年度は一昨年度までの様々な結果と課題及び昨年度の学校や生徒の実態・課題を基に中期目標達成に向けた年度目標とするため、経年比較ができない指標項目も多くある。今年度の運営に関する計画は、昨年度末の最終評価の指標を基に計画することとする。

学力面では一昨年度の全国学力学習状況調査や全市共通目標であるチャレンジテストにおいて、全学年の国語・社会・数学、3年の英語は大阪府平均を上まわった。また、大阪市英語力調査は、英検3級以上がわずかに半数をこえなかったが、同一集団でみると昨年より上がり目標値はこえた。理科と1・2年の英語は若干下まわり、同一母集団で比較すると、標準化得点は下がっている記録が残っている。3年になると学習内容が難しくなり高得点を維持していくことが難しい状況もあるため、この課題解消に向けた授業改善に取り組むこととしていた。唯一実施することができた1・2年チャレンジテストの結果は1年生でチャレンジテストプラスを加えて、平均59.73ポイントと府平均の57.97ポイントを上回り、対府比1.03、2年生のチャレンジテストは平均57.42ポイントと府平均の52.74ポイント、対府比1.09と大きく上回った。引き続き府平均を上回るよう授業改善に取り組んでいく。

次に生徒アンケートの結果から「タブレットなどのICT機器を使い、グループ学習やペアを組んで学習するなど、授業はわかりやすい。」の項目では、肯定的に回答した生徒は82%と昨年度より13ポイント増加した一方、保護者への項目「子どもは、グループ学習や発表会など、友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」は63%と5ポイント減少した。コロナ禍で学び合い学習に取り組みにくい状況が続いたことの影響はここでも確認されている。今後は協働的な学習での話し合い活動が授業理解や深い学びにつながるよう授業研究を進め指導方法の工夫をしていく必要がある。

さらにわかりやすい授業を目指し、教科単元でのICT機器や視聴覚機器、タブレットやプロジェクターを活用した授業を推進する。学習のツールとして、ホワイトボードなどを活用したグループ交流による授業も行われるようになってきたが、多様な活用など効果的な指導方法についてさらに研究を深めていく必要がある。

生徒はどの授業も落ち着いてしっかり受けており、「学校のきまり・規則を守っているか」のアンケートでは肯定的に回答する割合が昨年度より2ポイント増え、98%あり、令和2年度も高い割合を維持できた。また、不登校の生徒の割合は前年度より減少させることはできたが、様々な理由で学校環境に適応しにくい生徒のサポートは大阪市サポートネット事業を活用する等、区役所等の関係機関と連携しながら積極的に対応するとともに学校全体の共通理解を図りながら、個別の状況に応じた対応に努め、家庭との連携を密にして不登校生の減少にむけた角度からのアプローチを継続的に行う。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 生徒の規範意識を育むため段階的指導基準を活用しながら、日々の関わりを大切に取り組み、令和3年度の全国学力・学習状況における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を92%以上にする。
- 生徒が協働できる集団づくりなどを積極的に導入し、生徒の過ごしやすい学校づくりに尽力し、令和3年度の全国学力・学習状況における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を平成29年度より3%向上させる。
- さまざまな理由で学校環境に適応しにくい生徒のサポートを積極的に行い、毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 生徒のボランティア意識を向上させる取り組みを活性化し、令和3年度の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にしている」と答える保護者の割合を85%以上にする。
- 積極的に学校支援ボランティアを活用し本校教育を活性化させ、令和3年度末までにPTAや地域・各種団体・学生等のボランティア等を700人以上集める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 授業力向上のための教員研修を積極的に実施するとともに、生徒の読書習慣および基礎学力向上に尽力し、令和3年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の平均正答率を全国平均以上にする。
- ICT機器等を活用した授業を活性化させ、令和3年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の平均正答率を全国平均以上にする。
- 令和3年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成28年度より向上させる。
- 令和3年度の校内アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「できている」と答える生徒の割合を平成29年度より増加させる。
- 令和3年度の全国・学習状況調査における「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、平成28年度より減少させる。
- 令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を50%以上にする。
- 令和3年度における校内アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の75%以上にする。
- 令和3年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、平成28年度より3ポイント向上させる。
- 令和3年度末の校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない」と答えた生徒の割合を令和3年度において7%以下にする。
- 令和3年度の校内アンケートにおける「一日の睡眠時間」に対して、「8時間以上」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。令和3年度の全国体力・運動習慣調査の質問項目「一日の睡眠時間」について「8時間以上」と回答する生徒の割合を全国平均レベルにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・令和３年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和３年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- ・令和３年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ・令和３年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 生徒の規範意識を育むため段階的指導基準を活用しながら、日々の関わりを大切に取り組み、令和３年度の校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 生徒が協働できる集団づくりなどを積極的に導入し、生徒の過ごしやすい学校づくりに尽力し、令和３年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。
- さまざまな理由で学校環境に適応しにくい生徒のサポートを積極的に行い、毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 生徒のボランティア意識を向上させる取り組みを活性化し、令和３年度の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にしている」と答える保護者の割合を83%以上にする。
- 積極的に学校支援ボランティアを活用し本校教育を活性化させ、令和３年度末までにPTAや地域・各種団体・学生等のボランティア等を700人以上集める。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題である女子の握力、反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均値を昨年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 授業力向上のための教員研修を積極的に実施し、生徒の読書習慣および基礎学力向上に尽力するとともにＩＣＴ機器等を活用した授業を活性化させる。
- 令和３年度の校内アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「できている」と答える生徒の割合を平成２９年度より増加させる。
- 令和３年度の校内アンケートにおける「普段１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 令和３年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検３級以上の英語力を有する生徒の割合を４５％以上にする。
- 令和３年度における校内アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の７３％以上にする。
- 令和３年度の校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について。「当てはまる」と答える生徒の割合を６７％以上にする。
- 校内アンケートの「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない」と答えた生徒の割合を８％以下にする。
- 第２学年において漢字検定受検にむけ取り組み、生徒の学習意欲向上と自信につなげ、基礎学力定着の一助とし、漢字検定の合格率、全国学力・学習状況調査における漢字正答率を向上させる。

３ 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標および本校の中期目標・年度目標でも取り上げている、「学校のきまり・規則を守っていますか」の質問に対して、校内アンケートの結果、９６％の生徒が肯定的に回答している。また、アンケート等を通じて認知したいじめについては、その後の対応で１００％解消できている。その他、暴力行為を複数回行う生徒数も１件にとどまり、生徒にとって安全で安心できる学校づくりを進めることができていると考える。しかし、全校生徒数に対する不登校の生徒の割合は昨年度の８．９５％から７．６３％に減少したものの、新たに不登校になる生徒の割合は、昨年度の１．００％から２．６７％に増加している。コロナ禍で生活のリズムが崩れがちな生徒や、さまざまな不安を抱えている生徒も多く、家庭との連携はもちろん、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、その他関係諸機関とも連携しながら、それぞれの状況に応じた対応を継続していく必要がある。

また、校内アンケートの「自分にはよいところがある」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は７４％で、昨年度の５８％から大幅に増加した。学校生活を通して、一人ひとりの生徒の自尊感情を育み、自他ともに大切にできる集団づくりを今後も進めていきたい。

感染症拡大防止のため、学校行事の際も来校する保護者の人数を制限せざるを得なかった。また地域でも、実施できず中止になる行事も多かった。そうした状況ではあったが、保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」の質問に対する肯定的な回答の割合は８３％で、目標の数値を達成した。学校ホームページを通じて情報発信を行ったり、ポスターや標語の作成といった形で地域の取組に参加したり、現状でできることに取り組んだことが一定の理解を得られたと感じている。ただ、たとえば校内アンケートの「東三国中学校の生徒であることを誇りに思っている」の質問に対する肯定的な回答の割合を見ると、生徒が８３％に対して、保護者は６５％と開きがあった。学校の取組や様子など、ホームページ等による情報発信に加えて、保護者に説明する機会を増やせるよう工夫改善を図っていきたい。

ボランティアの方々による支援活動は、感染状況が比較的落ち着いていた１１月から１月中旬にかけての図書館活動にとどまった。感染症対策を踏まえたうえで、今後どのような活動が可能かをあらためて検討することが今後の課題である。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標に関する中学生チャレンジテストにおける結果は以下のようになっている。

- ・対府平均比（前年度より向上が目標）

	R 2	R 3
3 年	1.09	1.06
2 年	1.03(3 教科)	1.02
1 年		1.00(3 教科)

- ・府平均の 7 割に満たない生徒の割合（前年度より 1 ポイント減少が目標）

	R 2	R 3
3 年	17.4	19.6
2 年	23.9(3 教科)	21.9
1 年		16.0(3 教科)

- ・府平均を 2 割以上上回る生徒の割合（前年度より 1 ポイント増加が目標）

	R 2	R 3
3 年	43.0	34.8
2 年	40.3(3 教科)	42.2
1 年		25.9(3 教科)

目標に達していないものもあるが、その他の結果を見ると、全国学力・学習状況調査では、国語は全国平均には及ばなかったものの、府平均を上回り、数学では全国平均を上回った。また、3 年生の大阪市英語力調査(GTEC)では、4 技能すべてにおいて市平均を大きく上回り、英検 3 級以上に相当する生徒の割合も、55.8%となり、目標を大きく上回るなど、一定の成果が見られた。

校内アンケートで「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に対しては 72%、「ICT 機器を使い、グループ学習やペアを組んで学習するなど、授業はわかりやすい」に対しては 91%の生徒が肯定的に回答しており、いずれも目標を達成するとともに前年度より増加している。コロナ禍により、教育活動にもさまざまな影響を受けるが、今後も教員全体の授業力向上を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」のある授業、「よりわかりやすい」授業を進め、生徒のさらなる学力向上につなげていきたい。

また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、実施されなかった前年度との比較はできないが、男子はハンドボール投げ以外の 7 種目で全国平均を上回り、体力合計点でも全国平均より約 3 ポイント上回った。女子は上体起こし、反復横とび、20m シャトルランの 3 種目を除く残り 5 種目で全国平均を上回り、体力合計点でも約 1.5 ポイント全国平均を上回った。男女ともに日頃の体育の授業に真面目に取り組んでいる成果が表れていると考えられる。また、校内アンケートで「運動することは好きである」と肯定的に回答した生徒の割合は 73%で目標の数値を達成した。今後も運動することを楽しみながら、体力の向上を図ることができるように指導を継続していく必要がある。

その他、校内アンケート「朝食を毎日食べていますか」について「食べていない」と回答した生徒の割合は 3%で目標を達成し、「食べている」生徒の割合も前年度より増加した。安心で安全な学校生活を送るためにも、学力、体力向上のためにも、健康的な生活習慣の定着が欠かせないため、今後も家庭と連携しながら取組を進めていきたい。

大阪市立東三国中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 令和3年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を90%以上にする。 令和3年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。 令和3年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の規範意識を育むため段階的指導基準を活用しながら、日々の関わりを大切に取り組み、令和3年度の校内アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を90%以上にする。 ○生徒が協働できる集団づくりなどを積極的に導入し、生徒の過ごしやすい学校づくりに尽力し、令和3年度の校内アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を平成29年度より向上させる。 ○さまざまな理由で学校環境に適応しにくい生徒のサポートを積極的に行い、毎年度末の校内調査において不登校の生徒の割合を、前年度より減少させる。 ○生徒のボランティア意識を向上させる取り組みを活性化し、令和3年度の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」と答える保護者の割合を83%以上にする。 ○積極的に学校支援ボランティアを活用し本校教育を活性化させ、令和3年度末までにPTAや地域・各種団体・学生等のボランティア等を700人以上集める。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>A いじめ・問題行動に対応する制度の活用 SSWやSCとの連携、さまざまな社会資源からの支援を進めながら、段階的な生活指導基準の取組を進める。</p> <p>B 防災・減災教育の推進 地域の防災訓練への生徒の参加を進めるとともに、地域防災を担う人材育成に取り組む。</p> <p>C 安全教育の推進 さまざまな場面を想定して、防災・安全教育に努める。</p>	B

<p>指標</p> <p>A いじめアンケート等で生徒の実態を掴む機会を月1回実施し、いじめや問題行動等に対しての早期発見や早期対応を目指す。</p> <p>B ジュニアリーダーを育成するための組織化を行い、防災減災教育で活動できるような取り組みを進める。</p> <p>C 登校・下校のときなどけがや事故にあわないように安全にできるよう、登校・下校指導を行い、注意喚起等を行う。</p>	
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>A 道徳教育の推進 「読み物教材」の他、「問題解決的な学習」や「体験学習」などさまざまな方法による授業の構築を進める。</p> <p>B キャリア教育の充実 適切な職業観や勤労に対する意識を育成するための3年間を見通した指導計画を立てて、取り組みを進める。</p> <p>C 人権を尊重する教育の推進 「平和・男女共生教育・国際理解教育」を3つの柱として、各学年で指導を進める。</p> <p>D インクルーシブ教育システムの充実と推進 個々の生徒の状態把握、日常的な生徒の情報交換により、教職員の共通理解を図る。交流学习や校外学習を計画的に実施する。必要に応じて、医療・福祉の関係機関との連携も含めて、保護者との連携を密にとっていく。</p>	B
<p>指標</p> <p>A 年間カリキュラムを元に、計画的に授業を進めていく。</p> <p>B 1年生で職業体験セミナー、2年生で職業レディネステスト、マナー講座、3年生で高校出前授業を実施する。進路学習を1年生は2時間、2年生・3年生は5時間以上取り組む。3年の進路希望調査を4回以上行い、それを受けて懇談および適宜教育相談を進める。</p> <p>C 各取組でアンケートを実施し、「理解できた」の割合を80%以上にする。</p> <p>D 特別支援教育委員会、職会、学年会の情報交換で教職員の共通理解を図る。実践に役立てるよう、校内研修会を開く。(年1回)在籍生徒については、連絡ノートを活用するなどして保護者と連携をはかる。</p>	
<p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>【「開かれた学校」づくりの取り組みとして、学校元気アップ事業を活用した学校支援ボランティアの募集を行い、地域の人材を活用した学校支援体制を確立する。また、小中連携、地域連携を通じて学校が地域コミュニティの一つとして機能することをめざした情報発信を積極的に行う</p> <p>指標</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の収束後を見据え、学校元気アップボランティアを募集し、学生・お年寄り・地域の方々による学習支援と図書館の活用を行う。また、ジュニアリーダーの取組みとして校区小学校や地域のさまざまな活動や行事に参加、連携していく。</p>	B

<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや各種通信などによって学校、学年の情報を公開するとともに地域会議や青少年を守る会など、学校と地域をつなぐ各種組織と連携し、協力体制を確立する。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、地域行事へ生徒を積極的に参加させる。 	
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもサポートネットの活用で長期欠席生徒への関りを学校だけでなく、関係諸機関の関りも持つことができた。 ・11月から1月中旬まで、地域のボランティアの方々による図書館活動支援を行ったが、それ以外の期間は感染症拡大防止の観点から活動を制限せざるを得なかった。 ・定期的に地域会議に参加し、情報交換等連携を行った。また、12月に地域清掃を実施し、生徒が地域の方とともに取り組んだほか、ポスターや標語、うちの作製等を通じて、生徒が地域の取組に参加することができた。 ・年間カリキュラムを元に、計画的に授業を進めていくことができた。「読み物教材」の他、「問題解決的な学習」や、「体験学習」などさまざまな方法による授業の構築については、今年度いくつか教材を作成し、共有することができた。 ・各取組みにおいて、生徒の肯定的理解の割合は80%以上に達していた。 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度と比べて長期欠席生徒の割合が増加している。コロナ禍の影響も考えられるが、教師と生徒間の関りの改善に取り組む。 ・二年連続職場体験が中止になったため代替の取組みを考える必要がある。 ・今年度同様、年度当初に年間指導計画、全体計画を策定し、計画的に授業を進めて行く必要がある。また、このコロナ禍において、ゲストティーチャーを招いての取組みについて、実施ができない場合の代替案も考えていかなければならない。 ・これまでの取組みの中で、人権学習との統合は進めることができている。評価項目についても問題なく履修できていると考えている。今後はさらに教科横断的なつながりを意識してカリキュラムを作成していきたい。 ・コロナ禍において、地域ボランティアの方のどのような活動が可能か、感染症対策を踏まえたうえで検討していく必要がある。 	

大阪市立東三国中学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- ・中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- ・校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の向上に向けて、特に課題である女子の握力、反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均値を前年度より向上させる。

学校園の年度目標

- 授業力向上のための教員研修を積極的に実施し、生徒の読書習慣および基礎学力向上に尽力するとともにICT機器等を活用した授業を活性化させる。
- 令和3年度の校内アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「できている」と答える生徒の割合を平成29年度より増加させる。
- 令和3年度の校内アンケートにおける「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 令和3年度の大阪市英語力調査における、中学校卒業段階での英検3級以上の英語力を有する生徒の割合を45%以上にする。
- 令和3年度における校内アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の73%以上にする。
- 令和3年度の校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について、「当てはまる」と答える生徒の割合を67%以上にする。
- 校内アンケートの「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない」と答えた生徒の割合を8%以下にする。
- 第2学年において漢字検定受検にむけ取り組み、生徒の学習意欲向上と自信につなげ、基礎学力定着の一助とし、漢字検定の合格率、全国学力・学習状況調査における漢字正答率を向上させる。

B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>A 習熟度別少人数授業など個に応じた指導の充実 各学年の教科学習において、習熟度別少人数授業など、個に応じたきめ細やかな指導を実施する。</p> <p>B 理数教育の充実 自然との関わりを大切にした体験を重視した授業づくりや理科観察実験やICTを活用した授業の充実を図る。</p> <p>C 環境を守る意識の醸成 日ごろから公共物を大切にしよう指導し、美化委員の活動を通じて自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。</p> <p>D 淀川区学力向上支援事業「漢字名人育成計画」の活用 中学校2年生を対象に漢字能力検定受検に向けて、目標を持って学習に取り組むことで、学習意欲を高め、基礎学力向上の一助とする。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>A 校内アンケートで、「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を73%以上にする。</p> <p>B 理科の「観察・実験」の実施回数を各学年8回以上にする。</p> <p>C 美化委員会による清掃点検を年3回実施する。ゴミと砂を分別し、分別後のゴミ処理にも留意する。</p> <p>D 漢字能力検定受検に向けて、漢字の演習問題を5回以上演習させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>A 英語教育の強化 4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の育成を進めるために、教師用デジタル教科書に加え学習者用デジタル教科書を使用し、生徒に興味関心を持つ授業を行うとともに定着を図っていく。</p> <p>B ICTを活用した教育の推進 ICT機器を活用し、生きる力を備えた子どもの育成を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>A 大阪市英語力調査において卒業時に英検3級程度の力の生徒の割合を50パーセント以上になるように、文法演習を増やし定着を図り、多様なトピックの英検や入試の対応するよう、多読教材を使用し、教科書以外の語彙の指導もしていく。</p> <p>B 「学校における教育の情報化の実態などに関する調査」（文科省）において、教員の生徒へのICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合を65%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>A 子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実 体育の授業だけでなく、昼休みや、学活、総合の時間に運動をする取り組みを推進する。</p>	B

<p>B 食育の推進 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう食育を推進する。</p> <p>C 睡眠習慣改善の取り組み 睡眠習慣の改善に向けた啓発活動を進める。</p>	
<p>指標</p> <p>A 生徒アンケートで、「運動することが好き」と回答する割合を 67%以上にする。</p> <p>B 教科等における食に関する指導の充実を進める。</p> <p>C 全校集会や各種通信等で睡眠習慣の大切さを理解させる。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果、「タブレットなどの ICT 機器を使い、グループ学習やペアを組んで学習するなど、授業はわかりやすい」と回答した生徒は 78 パーセントに上った。 ・英語科の学習者用端末は教科書としてのみの使用で、実際に使いにくいので使用できていない状況にある。教師用デジタル教科書は引き続き使い、各学年で ICT を使い授業を工夫している。 ・年度目標である卒業時英検 3 級程度の力の生徒の割合を 50 パーセント以上は GTEC に換算して達成された。 ・理科において、ICT を活用した授業を実施した。 ・2 年生で 2 月の漢字能力検定に向けて計画的に取り組み、学習意欲を高めることができた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートで指標とする項目を見直す。また指標とする数値をどの程度上げていくか緻密なシミュレーションが必要である。 ・今年度初めて 3 年生は GTEC テストが行われた。4 技能を高めるべく ICT を使用しながら授業は行っているが、今後はクロームブックを使用し、web サイトにアクセスしてスピーキングやリーディングの練習を行う必要がある。 	